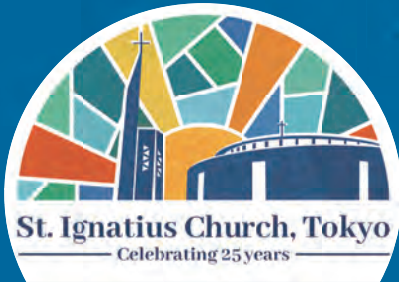


8・9月

カトリック麹町教会



# MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

### 教会テーマ

さあ出かけよう 心をつないで イエスとともに  
～ともに重ねた25年の喜びのうちに 聖霊の導く未来へ～

## 道と風とイエスに誘われて

協力司祭 ハビエル・ガラダ



なぜ自分が今ここに  
いるのでしょうか。ご自分の人生  
を顧みる皆さんも知りたい  
ことでしょう。実に不思議な  
ことです。  
このところの私自身は、イ  
エズス会入会75周年記念、  
来日65周年記念、イグナチ  
オ教会での叙階60周年記念  
を皆さんに祝っていただきま  
した。誠にありがとうございました。  
しかし、なぜ自分は今も  
るもろの事情を乗り越えて  
今ここにいますのでしょうか。

それは「風」のおか  
げです。「風は思いのま  
まに吹く」(ヨハネ3:8)  
のおかけです。ギリ  
シア語の「プネウマ」と  
いう名詞には二つの意  
味があります。「風」と  
「霊」です。ということ  
は、さまざまに交差点  
で柔らかに吹いてきて  
いた聖霊のそよ風が、  
戸惑っている自分を望  
ましい道へ誘ってくだ

それは、道に誘われていつ  
の間にかここに来たからで  
しょう。まさしくアタウアル  
パ・ユパンキが歌った通りで  
す。「道また道に誘われてこ  
こにたどり着いた」。結局、  
偶然に偶然が重なったから  
でしょう。  
それと同時に、「風」の影  
響が極めて大きかったので  
す。確かに一本の道しかない  
時もあったけれども、自分の  
前にいくつかの道が現れたの  
に、なぜ自分はイエスにつな  
がる道をえらんだので  
しょうか。

例で言えば、サラエボの冬  
季オリンピックの時、アイス  
スケート金メダルを獲得し  
た夫婦は、このように話しま  
した。「私たちは音楽に從っ  
て踊るよりも、音楽が踊る  
ようにしています。厳しい練  
習でテクニクを徹底した  
上、目をつぶってラヴェルの  
『ボレロ』を深く、長く聴くの  
です。体と心が音楽でいっぱ  
いになって、自分を音楽に委  
ねて音楽がおのずと踊るよ

さったわけでは  
結局、「道」と「風」に誘わ  
れてここに来たのですが、こ  
れからはどこへ行きましょ  
うにするわけです」  
この例を自分に当てはめ  
ると、「音楽」はイエスです。  
「練習」は、「愛し合う」とい  
う掟の実践です。音楽を深  
く「聴く」のは、祈りと黙想  
の時、イエスの言葉と生き方  
を心に受け入れ、イエスで  
いっばいになることです。「音  
楽が自然に踊る」のは、イエ  
スが私の内でゆったりとした  
気分です。生きるということ

このように「道」と「風」に  
誘われて歩む私たちは内に  
いるイエスが行きたくない所  
へ行かないで、イエスが行き  
たい所へ行くのです。「行く」  
というのは、内なるイエスに  
連れられて行くと同時に、イ  
エスを連れて行くのです。喜  
んで大船に乗った気持ちで。

### 教会報 MAGIS 8月9月合併号

† 2024年度 年次活動報告会	P2 ~ 3
† 教会行事報告	P4
† 教会活動グループ便り ⑫	P5
† つながるプロジェクト ②	P5
† 〈現聖堂 25周年記念連載〉 ⑤	P6
† Family of St. Ignatius ～英語圏から～	P7

### 【8月の共同祈願】

平和のために祈ります。

私たちが寛容さと謙虚さをもって、

民族や言葉の違いを超えて、

一致することができますように。

### 【9月の共同祈願】

「すべてのいのちを守るための月間」

に当たって祈ります。

自分を大切にするように、

まわりの人も心から大切にして、

日々、行動することができますように。



## 2024年度年次活動報告会

言葉の壁を越え、25周年、その先へ…

## 2024年度年次活動報告会 開催

6月15日(土) 13時よりヨセフホールにて、2024年度年次活動報告会が対面とYouTube配信の併用で開催されました。高祖敏明主任司祭、助任司祭方の挨拶から始まり、2023年度活動報告と2024年度活動計画が説明され、質疑応答の時間のあと、最後に会計報告が行われました。日本語のほか、英語、スペイン語、ベトナム語のレジュメが用意されました。

### 高祖神父の挨拶

今年、当教会は現聖堂25周年を迎えています。6月9日(日)には記念ミサを行い、日本語、英語、スペイン語、ベトナム語、インドネシア語それぞれのグループで祝いました。10月13日(日)の教会祭のミサは中庭に祭壇を築き、各言語グループ

が一緒になって祝い、お世話になった神父様方や恩人の方々をお招きする予定です。ミサ以外にも、講話、黙想、霊における対話、「教会の子どもたちのこれからを考えるシンポジウム」、巡礼の旅などの記念行事も行われます。

### 助任司祭の挨拶

皆さん、聖霊の導く未来を識別するために、言葉の壁を越え、教会とともに歩み、25周年の祝いが教会の持続的発展へと導いてくれるようご一緒に努めてまいりましょう。

### サトルニノ・オチョア神父

聖イグナチオ教会に帰ってきて2年半が経ちました。

コロナウイルス感染症の拡

大に伴う活動が規制され、週日のミサがなくなり、主日ミサも人数が制限されました。私も罹患しました。そんな中でもよいことがありました。デジタルの技術により、地の果てまで大勢とつながることができました。

これからは2つの課題があります。自由に強い声で祈りを唱え、聖歌を歌うこと、そして、高齢者のためのプログラムの見直しです。

### 柴田潔神父

・病者の訪問

孤独や不安を感じやすくなる方の励ましになれたらと考えています。司祭は病者の塗油を授け、臨時の聖体奉仕者が病院、施設、ご自宅までご聖体をお運びすることが出来ます。ご希望の方は事務室にご連絡ください。

・献血

4月14日(日)に東京都赤十字血液センターによる献血を行いました。そのうち約6割がベトナムの青年でした。次回は12月1日(日)に実施予定です。

・防災計画

これまでは地震が起きた

ら外へ避難しましたが、主聖堂は新耐震基準を満たしているため、落ち着いてとどまるように変更されました。主聖堂以外の施設で地震に見舞われた場合の危険箇所の明記を検討しています。また、自宅に戻らずその場に留まることが優先になったので、部屋ごとの宿泊人数の確認、非常用トイレの設置、収容人数を越えた場合の近隣施設への案内方法などを検討しています。日本語で災害マニュアルを作成し、他言語に翻訳する予定です。

・カプトムシ

飼育と頒布は14代目になり、2015年からは日本でも暮らす難民の方々の支援のために育てています。土替えに協力してくださる方や子どもたちが増えてきてうれしいです。7月につがいでお譲りしています。

### ボニー・ジェームス神父

日本語が母国語でない子どもたちのために、イングリッシュセンターが主体となっており、英語での教会学校を行っています。12時ミサに参加する子どもたちのためのAngels(エンジェルズ)、日曜



▲左よりニヤール神父、柴田神父、高祖神父、オチョア神父、ボニー神父

学校は小学生、中学生、高校生、大学のクラスがあります。

青年会は言語別（日本語、英語、ベトナム語、インドネシア語）に4つあります。ミサや祈りの集い、キャンプやボランティア活動などを行っています。7月28日（日）のイグナチアンユースデーは一同が集う交流です。全世界の教会全体の未来の担い手である子どもと若者の信仰育成を、全力で支えていくことが課題です。

**グエン・タン・ニヤール神父**  
・福祉関連グループ  
カレールの会、おにぎり仲間

など活発に活動しています。困っている人々に休める場所を提供する「あしたのいえ」は3カ所ありますが、いつも空きがない状態です。

・ベトナム人共同体

1月に赴任したグエン・バン・テー神父と一緒に活動しています。留学生、技能実習生として来日しているベトナム人の当教会所属信徒は約1000人です。生活が大変で、信仰者としての歩みは難しいことが多いですが、毎年、約80〜100組が結婚式を挙げ、毎月約20名が受洗しています。

・講座

日本人向けの入門講座では聖書を読み、分かち合いをしています。ベトナム人向けの講座はほぼ毎晩、オンラインで50〜100人のグループに分かれて行なっています。

## 2023年度活動報告

信徒代表 塚本京子

5月にマスクの着用が緩和され、いろいろな教会活動が再開しました。同じ方向で活動するグループが集まり連絡会を作り、助け合いながら活動を促進する動き

が始まっています。年間の大きな行事としては堅信式、ワールドユースデーへの派遣、長寿の集い、教会祭、教会黙想会、クリスマスなどが行われました。飲食を伴うお祝い会は実施できませんでしたが、年明けから個包装で再開、ようやく実現することができました。昨年度は本格的な活動に向けた準備期間だったように思います。

ローマでシノドス第一会期が開かれ、これに合わせて黙想会などシノドスの理解を深める取り組みも行われました。シノドスのテーマは「シノドスの教会のために、交わり・参加・宣教」です。引き続き、皆さまの参加と協力をお願い致します。

## 2024年度活動計画

信徒代表 久原清治

皆さま、現聖堂25周年おめでとうございます。現聖堂25周年実行委員会は準備委員会から話し合いを重ね、現在、5つのチームに分かれて準備をすすめています。

①記録

年表形式のデジタルアーカイブをホームページと連

携するため、教会史編纂グループとデジタルアーカイブグループが活動しています。

②記念ミサ

10月13日の記念ミサ、関連する典礼などについて検討をすすめています。ミサは野外で行われ、各言語を取り混ぜた国際ミサです。献堂に関わった方々と歴代の主任司祭をお呼びする予定です。

③イベント

25周年のシンボルマークの選定を行いました。年間を通して行われるさまざまな企画、教会祭の催し物などの企画と運営を担っています。

④若者

6月9日にタイムカプセルの掘り起こしを行い、その公開を担当。50周年へ向けて、未来の人々への贈り物について企画を練り上げています。

⑤インターナショナル

25周年のポスターは7つの言語で製作されました。7月28日のイグナチアンユースデーに向け、各言語の若者が話し合いを重ねています。

関連行事は4月の下五島巡礼を終え、11月には高山右近ゆかりの地の巡礼が行

われます。10月13日の教会祭はインターナショナルミサで祝い、11月の「教会の子どもたちのこれからを考えるシンポジウム」の序章となる「プレシンポジウム」が予定されています。11月23日（土・祝）教会黙想会、来年3月20日（木・祝）四旬節黙想会の内容も計画中です。25周年を盛り上げるラジオ配信「イグナチオ」も始まりました。ぜひ、お聴きください。

皆様とともに手をたずさえて（日本人も外国人も、若いも若きも）、聖イグナチオ教会100周年に向かって歩み出す一年にしましょう。

## 2023年度財務報告

財務委員長 谷口央樹

今年度はコロナ禍の規制がすべて解除され、また献堂25周年が予定されており、支出が増えるものと考えております。建物も25年を経過し修復改善、防災への備えが必要です。皆さまからの献金を効率的かつ有効に使用したいと考えています。今後ともご理解とご協力をよろしくお願い致します。

教会行事

6月下旬から7月中旬に行われた主な教会行事をご紹介します

●堅信式

6月23日(日)15時半から主聖堂にて、堅信式が行われました。100名の受堅者とその代父母、一般会衆も参列しました。

司式のアンドレア・レンボ補佐司教はミサ説教で話されました。

「まず皆さんをイエス・キリストの教えに応えるよう導き、全ての人の中に現れる聖霊の7つの賜物を思い出しましょう。知恵・理解・判断・勇気・神を知る恵み・



▲堅信の塗油を受けて

神を愛する・神への畏れです。聖書では『神は愛である』と定義されていますが、世界を見渡すと子どもたちが戦争やテロ、病氣、飢餓の犠牲となっていて、罪のない人々に死が襲っています。こうした社会の中で洗礼を受け、堅信を受けて生きる意味を考えましょう。

ナチス強制収容所に入れられ20代で亡くなったユダヤ人女性ベツティ・ヒベスの日記の中で、彼女は『この世界から神さまが追い出されている』と表現しています。暴力、民族主義、ナショナリズムの台頭で神さまが追い出され、『愛である神さまは愛のない世界で居場所を失ってしまった』というのです。それでも彼女は『自分自身が神さまの居場所になる、自分の心の中に愛を育てていく』と記しています。

堅信を受ける人たちが与えられる役割、心の中心に刻みつけなければならぬことはこの世界の中で自分自身が神さまの居場所となっていく、という考え方です。親や子ども、お年寄り、職場の仲間(隣人)に優しい心を示し、人を憎まず、赦

し続ける細やかな生き方の中に神さまは証しされています」

堅信式に臨まれた方々から以下の感想をいただきました。



堅信のお恵みをいただき、気持ち引き締められました。新たな心で神様に向き合い、祈りの中で自分の信仰を見直し、成長を続けていきたいです。良心に従い、自分自身を律し、揺るぎない強い信仰の心を持つて過ごしていこうと堅く決意しました。 M.S.(中学生)



洗礼の時、娘と共に感じた優しい光は、堅信の聖霊を受け、さらに深く輝きを増した気がいたします。日々、その光と守護聖人の愛に包まれ、神父様や代母様をはじめとした教会の皆様が育てられている自分を感じています。 T.O.



3回の堅信準備会、ゆるしの秘跡を受ける時間を設けていただき、堅信式に向けて気持ちを整えることができました。堅信式の塗油と按手の時に、聖歌隊から聖

霊の続唱の曲が流れて来て、涙が込み上げてきました。この秘跡のお恵みを、今度は、教会に奉仕、キリスト者として社会に貢献する力にして行きたいと思えます。司教様、神父様、シスター、奉仕活動の皆様、教会信徒の皆様感謝します。 N.O.



堅信式の後、ヨセフホールにてレンボ司教をお迎えして立食形式で受堅者のお祝いが開かれました。

●合同追悼ミサ

7月6日(土)10時から主聖堂で、2023年度および2024年5月までに逝去された161名の方のために行われました。先唱が一人ひとりの逝去者名を読み上げ、ご冥福をお祈りしました。合同追悼ミサは、今年度より年一回となります。

●侍者祝福式・更新式

7月14日(日)10時から主聖堂にて、司式は柴田潔神父で祭壇を囲むように子ども席が設けられ、18人の新侍者が任命されました。柴田神父は話されました。

「新侍者は、今年の4月に祭

壇を囲んで命のパンをいただきます。そして、神さまに近いところで奉仕したい、侍者になろうと決心しました。リーダーたちにたくさん教えてもらい、今日の祝福式を迎えました。イグナチオ教会では毎年新しい侍者が生まれ、侍者の中で信仰が育っています。家族や教会の中で、信仰は受け継がれていきます。今日、新侍者がイエスさまに派遣されます。温かい気持ちで祝福式を始めましょう」

祝福式では新侍者に柴田神父から白い襟がつけられ、その後更新式が行われました。



▲新侍者への白い襟の授与

# 活動グループ便り ⑫

各活動グループから、現在の活動状況の報告です

## ウエルカムテーブル

教会にいらした方々を温かく迎え、つなぐ

ウエルカムテーブルは、スタートしてから今年で6年目を迎えます。毎週日曜9時から正門脇と主聖堂脇にテーブルを設置し、教会を訪れる方、特に初めていらした方をご案内したり、講座や活動につないだりしています。

コロナ禍においては教会事務室と連携してミサの予約受付を行い、希望者とともにミサに与りました。当時はミサ後に短時間の分かち合いを行い、そこで親しくなった方々もいらつしやいます。制限が解かれた今、当時のご縁を生かし、毎月第一日曜10時のミサ後にウエルカムテーブル主宰で「分かち合いの会」を行っています。

活動メンバーは20代から

※活動グループの活動内容・スケジュール等は変更になることがあります。また講座に初めて参加される方は、講座担当者か教会事務室にご確認ください。

70代までさまざま。「ミサ前の30分」「月に1回程度」など負担にならない範囲での参加です。

私たちそれぞれが、かつて教会の門の中に入るのをためらった、親しい人がいなくて心許ない思いをした...という経験を持っており、その時の気持ちを思い起こし温かい対応を心がけています。

随時メンバー募集中です。ご興味がおありの方は黄色いテーブルクロスを目印に、どうぞお気軽に声をおかけください。



## シャロンのバラの会

共に語り、お互いに支え合う場を

『シャロンの小さなバラ』という絵本があります。神様に愛された綺麗なバラが自らの花びらをすべて落として小鳥の卵の命を守ったという、イエス様の姿を表した美しいお話です。当会はこのバラのように教会にいろいろな思いを抱えて来られる方たちと共に語り、お互いを支え合う共同体です。

教会にあなただの居場所はありませんか。信仰心は共同体に集うことで深まることは誰でも理解していますが教会の大きさ故に孤独を感じることもあるでしょう。代父母探しや代父母との交流について気軽に相談できる場として日曜サロン内にテーブルを出しています。



\*日曜サロン内テーブルは日曜サロン開催時に準備

また、信徒の皆様が共に信仰を深め交流する場(黙想・語り合い)としてローズルームを開催しています。

日時: 毎月第一土曜 13時~15時

場所: 信徒会館401

『マタイによる福音書』とともに自己の内面を読む『使用日時: 毎月第3日曜 11時15分~12時30分

場所: 岐部ホール301

『ともに旅する教会』をめざして『使用

## つながるプロジェクト ②

共同体としてのつながりを深める目的でミッション2030プロジェクトチームが始めた、いろいろな言語のミサにともにあずかる取り組みの2回目は、7月14日(日)13時半からのスペイン語ミサでした。

参加者は事前予約の16名。スペイン語に不案内な人も多く、着席したときはやや緊張ぎみでした。しかし、当プロジェクトのスペイン語共同体の担当者であるピラールさんが、故郷の聖人の御絵を一人ひとりにプレゼ

ントしてください、同担当者のハイメさんとともに近くに着席するなど細やかな配慮をしてくださったので、参加者の緊張もすぐにほぐれたようです。

この日の司式は、スペイン出身のサトルニノ・オチョア神父でした。オチョア神父が母国語で生き生きとお説教されているのに、内容が理解できずに残念に思っていました。が、翌朝、なんとハイメさんが日本語に翻訳して参加者に送ってくださったのです。説教の内容のすばらしさとともに、翻訳してくださった心遣いに感激しました。

平和のあいさつでは、聞きかじりのスペイン語で、スペイン語共同体の皆さんとあいさつを交わすこともでき、私たちは一つの共同体なのだと実感することができました。

今後、このプロジェクトはベトナム語、インドネシア語、ポルトガル語ミサと続く予定です。新たなつながりが生まれてくることを期待したいと思います。



エコな洗浄剤を開発し  
聖堂の清掃を変えた!!

1999年に現聖堂や信徒会館が完成し、新しくなった教会をどのように守っていくかを皆が考えていた頃、私も何かしなければという思いに駆られ、定年を機に「クリーンアップグループ」に参加しました。2001年のことです。

クリーンアップグループは3つの聖堂をはじめ、クリプタ、信徒会館、屋外などの清掃をしています。聖堂の清掃はとても苦勞していま

St. Ignatius Church, Tokyo  
Established 15 years

〈現聖堂25周年記念連載〉⑤

## 教会が抱える課題は今も昔も変わらない

鈴木司郎さん(信徒)

●鈴木司郎さんプロフィール  
2007年から教会委員を務め、2008年は教会委員長。2003年から3年間、2007年から4年間、聖体奉仕を務める。

た。まず市販の住居用洗剤を水で薄め、雑巾を入れて絞り、座席を一つずつ拭きま

す。当時は「ひざまづき台」があつて、それもすべて拭き、仕上げに水拭きをして、残った洗剤を拭き取っていたのです。3つの聖堂を合わせる

と、座席数は1000以上。大変さが想像していただ

るでしょう。

私は長年化学関係の仕事に携わってきたので、その経験を生かし、電解イオン水99・9%、植物由来の洗剤0・1%という洗浄剤を考案しました。電解イオン水は水に電気を流して生成します。主原料が水なので安全で安心です。仕上げの水拭きもいらず、清掃が格段に楽になりました。

山本襄治神父の提案で教

会バザーで頒布するようになり、クリーンアップグループでは今でもこの洗浄剤を使っています。

信徒の要望を聞き取り2つの活動が始まった

2008年には教会委員長を務めさせていただきました。翌年の教会報新年特別号に「教会委員長の新年の抱負」を執筆したので、今回、話をするにあたって読み返してみました。

その中で、当時の課題を次のように挙げています。司祭の高齢化、信徒使徒職の養成、講座の再編成、活動連絡会議のあり方の見直し、外国人信徒との関わり方、15年前に書いたものですが、現在も全てがそのまま課題として残されています。これはおおいに反省しなければなりません。

教会委員を終えた数年後には高齢者問題に取り組みました。「長寿の集い」の案内を2000通近く発送したところ、約半数しか返信がなかったからです。残りの半数はどうしているのだろうと疑問に思い、シルバー世代を対象にアンケート調査

を実施しました。

正確な分析ができなかったという反省は残りましたが、実りもありました。「教会に行っても話す人がいない」「司祭やシスター、信徒との交流の場がほしい」といった要望に応じて「水曜ティーサロン」と「日曜サロン」が始まったのです。どちらもミサ後にお茶を飲んでくつろいだり、信徒同士が交流したり、神父を交えて話をしたりできる場です。今も続いているので、どうぞご利用ください。

また、「ご聖体を届けてほしい」という要望もありました。それがきっかけで、病氣や高齢で教会に来られない方の名簿に新たにお名前を加えることができました。

この調査を行ったのは2015年です。20〜30年経つと世代が変わります。その頃に、ぜひまた実施してください。

「心をこめる」とは

これまで2度、臨時の聖体奉仕者をさせていただきました。最初の任命のときに指導司祭だったバレンタイン・デ・スーザ神父からは絶え

ず、「心を込めてご聖体を授与するように」と言われま

した。心を込めるとは、どうい

うことか。私は心を込めるこ

とができていますか。自問自答

しながら、ずっと答えが出せ

ませんでした。それが最近に

なって少しわかってきた気が

します。

「感謝の心をこめて」とい

うことではないかと思うの

です。ミサの中で私たちは

「神に感謝」と言います。神

に感謝するとともに、一人ひとりが互いに感謝の気持ちをもつ。これが大切ではない

でしょうか。

ミッション2030の活動

においても、皆でどのような

教会をつくっていくのかを明

確な形にし、お互いに感謝の

心で取り組んでほしいと思

います。

✦ ✦ ✦

ミッション2030プロジェクト

チームでは、現聖堂建設の前後に尽力された方にお話を伺う「教会の語り部に聞く」という集いを行っています。本稿は2024年5月26日(日)に行われた第3回に登場した当教会信徒、鈴木司郎さんのお話から抜粋・編集したものです。



Family of St. Ignatius

～英語圏から～

今年初めて教会年次報告書(2023-2024)の英訳がジョン・デ・ブリット・イングリッシュセンターのリーダーやボランティアに配られ、多くの関心を持って受け取られた。当教会の教会生活、昨年の成果、現在の現実と課題、今後の計画やビジョンについて、また主任司祭のお考え、助任司祭方のミサ以外の使命、信徒代表と彼らが献身的に取り組んでいるプロジェクトについて、より広く深く知る機会となった。発見も多かった。例えば、柴田神父が東日本大震災で甚大な被害を受けた福島幼稚園のために募金活動を続けていること、カブトムシ

(Rhinoceros Beetle)プロジェクトを通して難民支援のために募金活動を行っていることを英語圏のメンバーは初めて知り、日曜学校のサマーキャンプで話してほしいと頼まれるほど、多くの関心と呼ぶきっかけとなった。

今後、報告書がさまざまな言語に翻訳されることで、教会が私たちのためにしてくださっていることに感謝し、教会への帰属意識と献身を高めることで、私たちもそれに応えることができるようになりますように。多様性があっても、私たちは一歩ずつ「一つの教会として共に歩む」ことができるのです。

(シスター フロール・フロレーセ)

●宣教司牧評議会のお知らせ●  
(7月4日開催)

1. 「タイムカプセル(1999年—2024年)」を掘り起こし、6月9日(日)「献堂記念の主日」、15日(土)「年次活動報告会」の日に展示しました。今後は10月13日(日)「教会祭」、10月19日(土)「長寿の集い」等で展示予定です。
2. 6月15日(土)年「年次活動報告会」を行いました。オンライン配信とともに、今年は、日本語、英語、スペイン語、ベトナム語の4言語で資料を作成し配付しました。
3. 7月より、コロナ禍で中止していた聖水盤の使用が主聖堂前室2箇所、ザビエル聖堂入口で再開しました。
4. 「敬老ミサ」は年間予定どおり9月15日(日)10時ミサでお祝いしますが、10月19日(土)「長寿の集いの日」の12時ミサを「長寿を祝うミサ」として、病者の塗油を行います。80歳以上の方にはご案内をお送りいたします。

●現聖堂献堂25周年教会祭●  
開催日：10月13日(日)

プログラム：12:00 野外にて記念国際ミサ  
15:00 「教会学校の子どもたちのこれからを考えるプレシンポジウム」  
主聖堂にて

※この日のミサは7時、12時、18時の3回です。ご注意ください。

●築地教会150周年記念ミサ●

6月30日(日)宣教協力体として交流している築地教会の150周年記念ミサがあり、主任司祭と信徒の代表が参列いたしました。



●財務報告●

6月23日(日)「聖ペトロ使徒座への献金」812,783円は教皇様の活動のために捧げます。

ミッション2030講話・黙想・霊における会話①

世界のできごとを自分のこととして  
「世界の人々とともに歩む」

開催日時：9月8日(日) 13:30～15:30  
場所：ヨセフホール  
講師：柳川朋毅さん(イエズス会社会司牧センター、イエズス会社会使徒職委員)

今年度の現聖堂25周年のテーマは「さあ出かけよう心をつないで イエスとともに」です。国内外は今、紛争、貧困、迫害、気候変動、感染症など多くの課題を抱えています。コロナ禍で内向きになっていた私たちの目を外にも向けて、世界の人々とともに歩む教会を目指していければと思います。

そこで、イエズス会社会司牧センターのスタッフとして、また一人のキリスト者としてさまざまな社会活動に携わっている柳川朋毅さんを講師に迎え、「人々とともに歩む」ために大切にしていることを分かち合ってください。

\*詳細はポスター・チラシ等でご確認ください。

現聖堂25周年記念  
アルペ神父列聖祈願 連続企画 Part1

アルペ神父さまってどんな人？  
～アルペ神父の物語～

開催日時：10月6日(日) 13時～15時  
場所：ヨセフホール  
お話し：酒井陽介神父(イエズス会司祭)

アルペ神父様をご存じですか。アルペ神父様は聖イグナチオ教会にとっても少なからぬ所縁のある神父様です。バチカンでは2018年福者の認定に向けて、アルペ神父様に関する調査を開始しました。アルペ神父様とはどのような方だったのでしょうか。長年、アルペ神父様に関する研究を続けていらっしゃる酒井神父様がお話をしてください。

\*詳細はポスター・チラシ等でご確認ください。

●教会の夏休み●

教会案内所 8月12日(月)～16日(金) 夏休み  
信徒会館 8月1日(木)～31日(土) 19時閉館  
告解 8月19日(月)～8月30日(金) 休み  
クリプタは平常通り(9時～16時)お参りできます。

## 8月の典礼と行事

2 (金) 初金曜日	祈りの集い 19:00
4 (日) 年間第18主日	
6 (火) 主の変容の祝日	日本カトリック平和旬間(6日～15日)
11 (日) 年間第19主日	日曜サロン 11:00～12:30 ヨセフホール 教会案内ツアー ①10:30 ②11:00 受付 9:30～
15 (木) 聖母被昇天の祭日	平和祈願ミサ 7:00 10:00 12:00(英語) 13:30(スペイン語) 18:00 19:30(ベトナム語)
18 (日) 年間第20主日	日曜サロン・ミニオリエンテーション 11:00～12:30 ヨセフホール
21 (水)	クリプタに安置され8月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00
25 (日) 年間第21主日	
31 (土)	防災訓練 18:00ミサ後

## 9月の典礼と行事

1 (日) 年間第22主日	すべてのいのちを守るための月間 10月4日まで 防災訓練 7:00 8:30 10:00 18:00ミサ後 日曜サロン 11:00～12:30 ヨセフホール ミサがわかるセミナー 13:00 ヨセフホール 「神のことばとの対話」 講師：高祖敏明神父	被造物を大切にす世界祈願日
6 (金) 初金曜日		
8 (日) 年間第23主日	子どもとともにささげるミサ 10:00 ミッション2030 講話・黙想・霊における会話① 13:30 ヨセフホール 教会案内ツアー ①10:30 ②11:00 受付 9:30～ 防災訓練 12:00英語ミサ後	
11 (水)	傾聴ルーム 11:15～15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00ミサ後	
14 (土) 十字架称賛の祝日		
15 (日) 年間第24主日	敬老のミサ 10:00 日曜サロン 11:00～12:30 ヨセフホール ミッション2030 小さな分かち合い 11:15 203号室	祖父母と高齢者のための世界祈願日
18 (水)	クリプタに安置され9月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00	
21 (土)	新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座 15:00 ヨセフホール	
22 (日) 年間第25主日	日曜サロン・ミニオリエンテーション 11:00～12:30 教会活動連絡会議 13:00 ヨセフホール	
25 (水)	傾聴ルーム 11:15～15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00ミサ後	
26 (木)	ヤングオールド映画会 「ローマ法王になる日まで」 13:00 ヨセフホール	
29 (日) 年間第26主日		世界難民移住移動者の日・献金

予定が変更になる場合がありますのでご了承ください。最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

主任司祭：高祖 敏明

助任司祭：ボニー・ジェームス  
グエン・タン・ニャー  
サトルニノ・オチョア  
柴田 潔

協力司祭：ハビエル・ガラルダ  
中村 健三  
グエン・バン・テー  
関根 悦雄

シスター：マルセラ・ロサス  
(セントロ・ロヨラ)  
フロール・フロレーセ  
ジェスリン・ブエンディア  
(ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンター)

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

## ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel  
7:00/12:00/18:00

【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂 Main Chapel  
土曜 18:00/19:30 (Viêt Nam)

日曜 7:00/8:30/10:00/18:00  
12:00 (English) /13:30 (Español) /  
15:00 (Viêt Nam)

【月の第1日曜日 1st Sunday】

Our Lady's Chapel  
12:30 (Português) /16:00 (Polski)

【月の第2第4日曜日 2nd & 4th Sunday】

Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

カトリック麹町教会  
(聖イグナチオ教会)

〒102-0083  
千代田区麹町6-5-1  
TEL 03-3263-4584  
FAX 03-3263-4585  
<http://www.ignatius.gr.jp>



Linktree (リンクツリー)  
リンクツリー (linktree) とは多数のリンクをまとめて表示しているツールのことです。このQRコードを読み取ると教会ホームページ、教会ガイド、Twitter、Facebook、Instagram、YouTubeへアクセスできます。

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

\*本文中の役職名等は、寄稿もしくは取材時のものです。